はじめに

みなさん，こんにちは。地理のたつじんです。論述地理の世界にようこそ。国公立二次や私大の入試において，地理の論述問題が課されることは多くあります。そうした論述問題について備えは十分にできていますか。当たり前のことですが，論述型の問題と，共通テストでみられるようなマークシート型の問題とでは，求められる技術が全く異なっています。共通テストが得意だからといって，必ずしも論述問題で高得点が取れるかどうかはわかりません。論述問題には特有のスキルやテクニックが必要になります。この「論述地理」の講座では，みなさんの「論述力」を徹底的に鍛えていきます。教科書レベルの知識は十分に身につけたけれども，いざ論述問題に挑戦してみたら，一体何をどうやって書いたらいいかわからない。そんな受験生は多いと思いますが，ぜひこの講座を導入として，論述問題の書き方に習熟してください。解答しやすい問題を取り上げ，ベーシックな知識だけで解答できるようアドバイスしていきます。決してハードルは高くありません。まずは気楽な気持ちで受講してください。この講座を通して，「論述問題って意外と簡単に書けるんだな」と気づいてもらえたら，たつじん先生としてはこんなに嬉しいことはありません。

[問題のセレクトについて]

論述地理の講座は全部で５つの講から構成されています。第１講が「人口と都市」，第２講が「経済活動」，第３講と第４講が「自然環境」，第５講が「地誌」をそれぞれテーマとしています。各講につき練習問題を３問ずつ取り上げており，それぞれのチャプターで一つずつ問題にチャレンジしていきます。いずれも過去の入試問題で，出典は東大と京大です。

この２つの大学の問題をセレクトした最大の理由は「オーソドックス」であることなのです。みなさんの中には，東大と京大の入試問題だからといって，いたずらに「難易度が高い」と思い込んでいる人はいませんか。実はそれは大間違いなのです。論述問題のレベルとしては一橋大や東京学芸大の方がはるかに難しいですし，文章の長さも筑波大や阪大の方がよっぽど長いのです。東大や京大の問題は質が高いものが多く，奇をてらったものやいたずらに受験生を困らせる問題は出題されておらず，解答しやすい「親切な問題」が揃っているのです。論述問題で最も手強いのは「一体何を答えたらいいのかわからない」というパターンだと思います。いきなりそうした難易度の高い問題を解いてみても，むやみに苦手意識ばかりが高まるばかりですよね。まずは東大や京大のオーソドックスで親切な問題に挑戦してみて，論述のコツをつかんでみましょう。一橋や筑波など難易度の高い問題にチャレンジするのはその後でも遅くありません。

[予習について]

授業は問題解説の形で進んでいきます。前述したように各講座につき３問ずつ問題が取り上げられています。まずはこちらに取り組んでみてください。なかなか簡単に

は解けないとは思いますので，ぜひテキストを参照してください。いろいろなアドバイスを記しておきましたし，中にはほとんど答えを言ってしまっている部分もあります。テキストについては，できるだけ「簡単な説明」を心がけています。例えば，すでにみなさんの中には過去問集や参考書，問題集などでさまざまな論述問題を解いており，そちらの解説も熟読している人もいると思います。もちろんそこでは「高度な知識」や「難しい表現」を用いた完璧な解答が披露されているわけで，この講座におけるたつじん先生の解説や模範解答では物足りなさを感じる人もいるかもしれません。しかし，私は考えるのですが，果たして大学受験レベルで完璧な解答など必要とされているのでしょうか。そもそも大学入試は満点を取る試験ではありません。後述しますが，場合によっては50％程度の得点率で十分に合格圏に達することはできます。また，地理には自然地理や人文地理，さらには時事や経済までさまざまな分野が含まれます。入試問題もそうした多様な分野からまんべんなく出題されているのですが，それら全部に完璧な解答ができるスーパーマンがいるのでしょうか。大学の先生ですら自然地理を専門とする人や人文地理を専門とする人などそれぞれ分野が違うのですから，例えば土壌と気候の関係を研究している先生が，2000年代の日本企業の海外における生産活動について，専門的に解説できるでしょうか？　みなさんに全分野にわたって100％の解答が求められるわけがありません。論述問題については気楽に考え，簡単な知識で，シンプルな文章で，当たり前のことを当たり前に書くという姿勢を徹底させてください。「論述問題は難しいものだ」と思い込んでしまうと負のスパイラルにはまってしまいますよ。自分の知っていることを，複雑な表現は用いず，簡単に書き綴ってみませんか。とにかく「Take It Easy!」です。不完全でも構いませんので，まずは「書いて」みましょう。

なお，字数制限の80％には必ず達するようにしましょう。30字ならば24字，60字ならば48字は超えるようにしてください。これは厳密なものではありませんが，あまりに字数が余ってしまうのは印象が悪いですよ。

また，こちらも絶対ということではありませんが，「理由」の説明が求められている場合は，文末を「～から」，「～ので」で締めくくることを意識してください。ただし，字数に余裕がない場合などは省略してもやむを得ないでしょう。

[論述のコツ]

上でも述べていますが，最初から完璧な解答を書こうとしても，なかなか筆が進まないものです。最初のうちは教科書や参考書を用い，さらにはテキストを大いに参考にして，とにかく自分なりの文章を仕上げてください。どんなことにも言えると思いますが，「慣れること」こそ大事なのです。最初はうまく書けなくて当たり前です。でも焦らないでください。問題をこなし，経験値を上げることで必ず文章力，論述力は上がっていきます。根気強く問題にチャレンジしていきましょう。

さらに，この「完璧を目指さない姿勢」が本当に大切なのです。すでに述べているように，東大や京大の問題は難易度そのものは決して高くなく，むしろ，全ての国公立二次の入試問題の中で最も容易といっていいぐらいなのです。しかし，だからといっ

て完璧な解答が必要とされているわけではなく，せいぜい50％程度の得点率でも合格者はいくらでもいるのです。もちろん，比較的難易度が低い記号選択問題や語句記述問題で高得点を稼ぐことが条件になりますが，少なくとも論述部分については比較的正解率が低くとも全く問題ないわけです。完璧な解答を作ろうとして四苦八苦するより，とりあえず文章を書き進め，不完全ではあっても自分なりの文章を作り上げることが大切です。

もちろん，ある程度の知識は求められていますから，少なくとも教科書レベルの内容はマスターしておいてくださいね。しかし，何度も繰り返しますが，そもそも完璧な解答は求められていません。はっきり言えば，このテキスト内で示している模範解答にしても100点満点が取れるものとは思っていません。しかし，それでいいのです。確実に部分点を稼いで，その積み重ねで合格を目指す！こういった姿勢を徹底してくださいね。

では，論述問題攻略のポイントを整理しておきます。

１）問題内容をしっかり把握し，これにキチンとレスポンスする。

一体何を書けばいいのか，どんなことについて述べることが求められているのか。焦って書き始めるのではなく，問題文をしっかり読み込み，まずは落ち着いて思考を巡らせてください。

２）あくまで部分点狙い。欲張らない解答を。

大学入試は満点を取る試験ではありません。論述問題にしても完璧な解答を仕上げることを考えず，「50％を確実に，あわよくば80％」を目指してください。十分に合格圏に達せます。

３）確実な知識にのみ言及。あいまいな知識はスルーする。

あれもこれもといろいろな内容を詰め込みたくなるのが論述問題ですが，それによってあいまいで不確かな知識にまで手を伸ばしている人はいませんか。間違った内容について言及することで得点が大きくマイナスされることすらあります。あなたが確実に知っている知識をはっきりと述べ，あいまいな知識は避けるのが無難です。

４）定番のキーワードを意識して使えているか。

例えば，寒流沿岸に乾燥地域ができる理由については「大気の安定」，1990年代以降の日本企業の海外進出については「円高」など，定番ともいえるキーワードが論述問題には含まれています。論述問題だから自分の自由に書いていいのではなく，むしろ定型化された部分も多いのです。決まり切った表現を決まり切った形式で用いることも，論述問題攻略のポイントとなるのです。

５）意外と使える箇条書きスタイル。

例えば「砂漠化」の理由について答える場合には，砂漠化のメカニズムについて論理的に説明していたら字数がいくらあっても足りません。「降水量の減少，家畜の過放牧，薪炭材の過剰な伐採」のように，定番のキーワードをひたすら並べていくだけでも十分な解答になります。論述だから「主語と述語のはっきりとした文章」を必ず書かないといけないわけではなく，時にはこうした「箇条書き」スタイルも有効であることも，心に留め置いてください。

６）慣用句表現は用いず，接続詞も最小限に。

国語（現代文）が得意な文章力のある受験生に多いのですが，巧みに慣用句表現が使われ，多くの接続詞によって文章が整えられています。しかし，みなさんが取り組んでいるのはあくまで「地理」の論述問題なのです。文章力の巧拙が問われているわけではありません。淡々と事実だけ述べればいいのであり，文章としての完成度を上げる必要はないのです。逆にいえば，国語の苦手な君たちだからこそ，シンプルで確実な論述解答を仕上げることが可能となります。巧みな文章を書こうという姿勢を捨て，不器用でいいから求められている内容のみしっかり解答する心構えを持ってください。

７）組み立てや説明の順序も工夫してみよう。

文章力は不要といいましたが，文章の組み立てや説明の順序には十分な注意を払ってください。例えば「熱帯の土壌について説明せよ」という問題が問われた場合，極端な話，「ラトソルである」だけで説明は終わってしまうのです。しかしこれではおそらく解答条件（字数など）を満たせないでしょう。「赤色の」，「酸性土壌」，「金属を含む」のような説明をここから加えていくことになるのです。「ラトソルである。赤色の酸性土壌で金属を含む」としてもいいですし，「金属を含む赤色の土壌であるラトソルで，酸性である」でも構いませんし，「金属を含む酸性で赤色のラトソル」でも大丈夫でしょう。いろいろ工夫してみてください。

８）使用語句の指定がされている場合，それら自身が問題を解くカギとなる。

論述問題の中には，使用する語句が指定されているものがあります。こういった問題については，まず語句を慎重に吟味してください。出題者側はそういった言葉を用いて答えさせようとしているのですから，（普通の問題以上に）こういった問題については出題意図が明確なはずです。つまり，出題者の「こういった語句を使って，ぜひこうした文章を書いてくださいね」というメッセージが強く表されており，みなさんもこれに従って素直に解答を仕上げることが求められるのです。何を書いたらいいか迷うような問題であっても，使用語句を手掛かりに解答が想像できることがあります。使用語句が指定されている問題こそ，大きなヒントが示されているのです。出題者の意図に沿って，素直に文章を書き進めましょう。

９）語句の濫用は避けるべきである。

上と類似したパターンで，多くの語句が示されていて，その「いくつか」を使った解答が求められる問題があります。こうした場合，できるだけ多くの語句を使用して文章を書き上げようとする意識がどうしても働きますが，私はそれはお勧めできません。語句の中には，文章を書く際のヒントとなるものもあるのですが，難解な説明が必要となるものがあります。すでに述べているように，みなさんが述べるのは「確実な知識」であり，「あいまいな知識」については誤りの可能性がある以上，触れるべきではないのです。示された語句全ての使用が強制されているわけではない問題の場合，やみくもに語句を文章中にちりばめるのではなく，無理せず確実な語句のみ使い，自分の理解できる範囲で確実な解答を心がけましょう。

10）字数制限は80％を目安に。

論述問題の多くは字数制限が与えられているわけですが，その80％は最低限満たすようにしましょう。文章は，短いものを長く伸ばすのは困難ですが，長いものを短く縮めるのは比較的容易です。少し文章が長すぎるかな？ぐらいの分量で最初は書いてみて，そこから少しずつ語句を削ったり，表現を改めたりして，長さを調整してみましょう。ただし，文字数は一字でもオーバーしたら採点対象外です。最悪の場合，「どうしても言いたいこと」をカットする必要性も生じるかもしれませんが，そこは部分点狙いと割り切って，文章を文字数制限内に収める努力をしてください。

以上，論述問題対策として思うところを書き連ねてきました。少しでも参考になるところがあったなら，大変嬉しいです。結局，論述問題は「簡単」に「シンプル」に書くことが求められているのです。難しく考えず，気楽な気持ちでチャレンジしてください。マークシートの問題を解くだけでは得られない，論述問題を解いてこそわかる地理という科目の深さに，あなたは魅入られるはずです。

さあ，「論述地理」の世界の扉を開けましょう。

地理　鈴木達人

目　次

第１講　人口と都市に関する論述問題 ……………………………… p8

第２講　経済活動に関する論述問題 ……………………………… p24

第３講　自然環境に関する論述問題（１） ……………………………… p42

第４講　自然環境に関する論述問題（２） ……………………………… p62

第５講　地誌に関する論述問題 ……………………………… p80

※本テキストは，一部問題において東京大学・京都大学の入試問題を改変して使用しております。詳細はテキストをご確認ください。

このテキストは2020年度版です。年度切り替わりの前後に講座ページに掲載予定の時事更新一覧をご確認頂くことで，来年度以降もこのテキストをそのままお使い頂けます。

〈 ***Note*** 〉

第１講
人口と都市に関する論述問題

［１－１］

世界の人口に関する問題になっています。

設問Ａを解いてみましょう。年間の人口増加割合については，具体的な数値で覚えておくのがコツです。おおまかに以下のようになります。

2%；アフリカ
1.5%；南アジア・ラテンアメリカ(＊)・オセアニア
0.5%；東アジア・アングロアメリカ
0%；日本・ヨーロッパ

世界平均が１％で，これはアジア全体の平均でもあると考えてください。原則として人口増加率は１人当たりGNIに反比例することを考えてください。そして，その中で中国とアングロアメリカ，オセアニアが例外になるのです。中国は，経済レベルが低い国としては例外的に人口増加率が世界平均を下回っています。アングロアメリカとオセアニアは，先進国でありながら，日本やヨーロッパとは異なり，人口増加率が高くなっています。とくにオセアニアは人口増加率の基準となるそもそもの人口規模が極めて小さいこともあって，値が際立って高いものとなっています。中国の場合は一人っ子政策によって出生率が低下したこと，アングロアメリカとオセアニアの場合は外国から多くの移民が流入していることがポイントになるのは言うまでもありませんね。
(＊)現在，ラテンアメリカの年間の人口増加割合はやや低下しています。1.0%で覚えておくといいでしょう。

設問Ｂについて考えてみましょう。ここで意識するべきは人口動態です。例えば日本においても古い時代の人口動態は「多産多死」でした。出生率と死亡率がいずれも高い値を示し，両者の差である人口の自然増加率も低く抑えられます。
この次の状態として「多産少死」があります。高い出生率がキープされた状態で，

死亡率が下がっていきます。自然増加率は上昇し，人口は急増します。

本問の場合，この人口動態の変化を説明すればいいわけですね。文字数制限は60字であり，字数に余裕がないわけではありませんが，あまり多くのことを詰め込むことはできません。まず最初の段階として，これらの国々が「多産多死」であることを説明しましょう。もちろんこれだけでは人口は増えませんので，次の段階として「多産」がキープされた状態で「少死」となることを説明します。死亡率が下がることについては，成人を取り上げて長命化を述べてもいいとは思われますが，「乳児」というキーワードが挙げられているのですから，乳児死亡率の低下を主に説明したらいいと思われます。なぜ，乳児死亡率が下がったのか，そういったことを具体的な言葉を添えて説明してみましょう。

設問Ｃはどうでしょうか。（ウ）の国はわかっているはずです。先進国一般ではなく，あくまで（ウ）の国に固有の事例なので，より具体的な記述が求められています。もちろん移民の流入というファクターが重要となるのですが，（ウ）の国における移民にはどういった人々が多いのでしょうか，考えてみましょう。さらに移民の流入ならば「社会増加」による人口増加ですが，果たしてそれだけが理由なのでしょうか。自然増加についてはどのようなことが言えるのでしょうか。字数が限られていますが，そういったことまで言及できればベストに思います。

さらに設問Ｄです。今度は字数制限が90字ということで，じっくりと腰を据えた説明が必要になってきます。ただ，慌てないでください。キーワードとして「人口ピラミッド」が挙げられています。前半の50字程度で，これらの国の人口増加率が低い理由を説明し（設問Ｂの形式を意識してくださいね），後半に人口ピラミッドの説明を続けます。前半のキーワードとしては「出生率」と「平均寿命」がありますが，もちろん「出生率の低下」と「平均寿命の伸び」がカギとなりますし，これらを人口高齢化と結びつけてください。人口ピラミッドについては，その形状を表すキーワードを取り上げましょう。底辺が長い人口ピラミッドは「富士山型」で，これは発展途上国のパターン。それが底辺が短くなる（つまり出生率が下がる）ことで「釣鐘型」に移行し，こちらは先進国のパターンとなります。そして，それがさらに進み，底辺が特に短い不安定な形状として「つぼ型」に移行します。ここでちょっと気をつけて欲しいことがあるのですが，つぼ型は「すでに人口が減少した」人口動態のモデルなのです。もちろん日本など先進国のいくつかの国では人口が減少しているのですが，それでもその減少率は全体の人口の１％には満た

ず，微々たるものといえます。人口が大きく減少している国は存在しないのです（これには20世紀前半のフランスや冷戦期のドイツなどいくつか例外があるのですが，今回の設問とは関係ないので無視します）。よって，人口ピラミッドについても「つぼ型になりつつある」のような言い方で説明すると良いと思われます。

［１－２］

都市圏の開発に関する問題です。こうした都市開発に関する話題は近年とくに注目が集まっています。21世紀の社会事象として捉えていきましょう。

まず設問**A**です。「鉄道」が整備され，「郊外」との交通条件が整備されると必然的に，都心と郊外との「時間距離」が短縮されます。都心からの人口流出と，郊外への人口流入について，それぞれ簡単な理由を付して説明すればいいでしょう。前後しましたが，こうした都市圏の開発の状況を鑑みれば，最初の問題の答え（**ア**あるいは**イ**）は簡単に導かれます。

続いて設問**B**では，スプロール現象がなぜ都市の発展に好ましくないのか。その理由が問われています。基本的にはスプロール現象をそのまま説明すればいいでしょう。文末を「から」，「ため」で締めくくれば更に好ましい解答となりますが，特にそこまでこだわる必要もないと思います。

まずスプロール現象について。「郊外における虫食い状（無秩序）の乱開発」が最もシンプルな解答です。そもそもの意味は，都市型土地利用と農村型土地利用の混在ですので，「農地や林地の中に住宅や工場が混在する」という言い方も可能です。

しかし，これだけでは今回の設問の要求を満たせません。スプロール現象がなぜダメなのか，ということを説明するのです。意外にこの部分について詳しくない人が多いのではないですか？

スプロール現象については，あくまで経済用語と考えることが肝心です。例えば，３軒の家が建てられる場合，それぞれバラバラな場所に建てたならば，それぞれに道路や電線，下水道などを建設しないといけないわけで，非常に無駄が大きいのです。学校や公民館などの公共施設も必要になるでしょう。せっかくなら，計画的に３軒をまとめて一つの住宅地とし，そこに集中して道路などのインフラ，

学校などの施設を建設した方が効率的ですよね。

例えば，スプロール現象の反対の概念は「ニュータウン」です。郊外にニュータウンなど住宅団地を建設すれば，その周辺を開発するだけでよく，都市開発がスムーズに行われるのです。スプロール現象，すなわち住宅が林地の間に無秩序に配置されることの弊害を，整備されたニュータウンの反対の概念として説明してみてください。

使用語句については，「道路」は問題ないでしょう。「道路や○○などのインフラ」とすれば字数も稼げます。「公共投資」は言うまでもありませんね。「公共投資が効率的に行われない」とすればいいのです。これに対し悩むのが「利便性」ですが，逆にいえばこれはスプロール現象を説明するための必須ワードではないのです。字数制限にも余裕がありますし(むしろどうやって字数を稼ぐか悩む)，最後に「住民の利便性が損なわれるため」程度の「締めの言葉」として用いれば十分でしょう。

さらに設問Ｃです。(１)では日本型ニュータウンの問題点の説明が求められています。ポイントは２つです。一つは「通勤ラッシュ」の問題。もう一つは「地域コミュニティ」に関する問題。前者はわかりやすいですが，後者は難しいでしょうか。都心部への通勤者が多く昼間人口が少ないため，いわゆる「ご近所づきあい」がされにくいという問題が生じます。このことを「地域コミュニティ」という言葉を用い，説明してみてください。

(２)は非常に重要な問題です。ニュータウンにおいては開発時に20〜30代の若い世代が入居してきたことで，彼らおよび子供の世代に年齢層が偏っています。「人口は減少していない」つまり新たな転入者が少ない中で，どのような年齢構成の変化が生じ，結果として「小学校の統廃合」が行われているのか考えてください。文字数が多ければ，ニュータウン開発から10年ほどで，小中学校が多数新設されたことも述べてほしいのですが，今回はそこまで字数に余裕はないようですね。小中学校が減った，すなわち児童や生徒が減少したことに特化して説明してみましょう。ちなみに小学生が児童，中学生が生徒ですので，ちょっと気をつけてください。

［１－３］

都市に関する問題です。共通テストではあまり都市名に関しては出題されないので，共通テストを中心に勉強してきた人にとってはこの辺りが盲点となってしまいます。二次試験突破を目指しているみなさんは，この部分は意識して勉強量を増やすべきです。

では（１）について考えてみましょう。都市ではなく，大都市圏の人口なので注意が必要です（都市圏は都市の影響範囲なので，行政区分の都市よりは規模が大きくなることがあります）。とはいえ，とりあえず大都市の数は限られていますのである程度有名な都市が登場しているはずで，細かな知識が要求されているわけではありません。

それよりも，それぞれの国の人口規模が重要となるのが分かるでしょうか。表より「当該都市の大都市圏人口」と「全国人口に当該都市の大都市圏人口が占める比率」から，その国の人口が概算されます。Ａ～Ｅが含まれる国について人口を計算してみましょう。Ｄの都市が明確になり，おのずと「首都でない都市」もはっきりします。

（２）はとくに発展途上国において顕著なパターンですね。特定の大都市に投資が集中することで，その国において突出した「たった一つの都市」が形成されます。農村からの人口流入が激しく，スラムが形成される場合も多々あります。

都市Ｂに関する問題が（３）です。Ｂの含まれる国の人口規模は7000万人で，これは大きな手がかりになります。また経度的に考え，日本からの距離が比較的近いこともわかります。南北回帰線内という条件を考えれば，おそらく東南アジアの国なのではないでしょうか。人口規模から国を特定しましょう。

さらにこの問題のポイントは，Ｂの含まれる国の具体的な状況が問われている点です。東南アジアならば当然日本の工場が進出しているはずですし，とくにこの国は日本との間で自動車（自動車部品）については自由貿易が成り立っています。自動車にまで言及する必要はありませんが，都市周辺に立地する施設として「工業団地」は絶対的なキーワードになるでしょう。これを中心として，あとは各種のインフラ（高速道路や空港）や商業施設（ショッピングセンター）なども字数稼ぎのアイテムとして使いながら，文章を組み立てるのです。

（**4**）については都市および国の判定は難しくないと思いますので，この部分は明かしてしまいますが，メキシコの首都メキシコシティです。低緯度にあるものの，高原に位置するため気温が低く，熱帯気候には分類されません。

メキシコシティは深刻な大気汚染で知られる都市です。その理由をいくつか紹介しましょう。

１）酸素濃度が低いので，エンジンが不完全燃焼を起こし，大気中の一酸化炭素濃度が上昇。
２）排気ガス（窒素酸化物）と激しい日射によって光化学スモッグが発生。
３）かつての湖底であり砂地であるため，砂埃がひどい。
４）降雨が少なく，雨による空気の洗い流しが少ないため，大気汚染物質が大気中に多く浮遊する。
５）盆地に位置し，外気との交換が少ないため，汚染された大気が滞留する。
６）アメリカ合衆国からの中古車が多く，性能が低いため，排気ガスの排出も相対的に多い。

もちろんこれを全部記述することは不可能ですし，そもそも本格的にこうした状況を説明するならば，例えば一酸化炭素濃度が高いことによってどのような被害が生じるかまで言及する必要があるわけで，さすがに入試レベルでそこまでは求められることはありません。とくに今回は40字という比較的短い字数制限でもあり，さらに「立地条件に関係して」とあるのでさらに内容も限定されると思います。地形的な特徴（盆地であること，標高が高いこと）を軸に据え，いくつかの要素を箇条書きにすれば十分でしょう。

最後に（**5**）ですが，資源の名称は問題ないでしょう。ラゴスはナイジェリアの人口最大都市にしてプライメートシティ（あっ（**2**）の答えを言っちゃいましたね）ですが，首都ではないことが重要です。そのナイジェリアの北部はいわゆるサヘル地帯であり，ステップ（草原）が広がっています。この地域からの「人口流出」なのですから，砂漠化に伴う環境難民であることは理解できるでしょう。そう，この問題のポイントはズバリ「砂漠化」なのです。

ただ，字数が中途半端ですね。もっと短ければ，「草原における植生喪失である砂漠化」でおしまいなのですが，さらに文章を増やすことが求められています。ここは砂漠化の原因を書いてみましょう。しかし，一つ一つの原因について細か

く触れていたら字数が足りません。箇条書きを意識して，キーワードを連ねていくという形式をお勧めします。

　砂漠化の原因については，「自然的要因によるものが主で，それに加えて人為的な原因がある」と認識しておいてください。例えば教科書などには「家畜の過放牧」，「薪炭材の過剰な伐採」，「耕作不適地への耕地拡大（過耕作）」，「不適切な灌漑による塩害の助長」などが砂漠化の原因として挙げられているかもしれませんが，それより優先するものとして必ず「降水量の減少」を論じてください。自然的な要因を絶対的なものとして真っ先に取り上げ，その上で人為的な要因も加わるのだ，というニュアンスで文章を組み立てると完璧です。砂漠化の原因についての記述は，論述問題で頻出のネタですが，この機会に書き方を覚えてしまいましょう。

〈 ***Note*** 〉

第１講　練習問題

［１－１］　東大　2002年度・第２問

次の表は，各国の人口増加率，65歳以上人口割合，１人あたり国内総生産(GDP)を示したものである。これを見て，以下の設問Ａ～Ｄに答えよ。解答は，解答用紙の(ロ)欄を用い，設問ごとに改行し，設問記号・小問記号をつけて記入せよ。

群	国	人口増加率 （%）	65歳以上人口割合 （%）	１人あたりGDP （ドル）
X	フィリピン	2.6	5.9	866
	(ア)	1.9	4.3	451
Y	(イ)	1.1	6.9	738
	(ウ)	1.0	12.7	31,456
Z	(エ)	0.5	15.7	26,014
	日　本	0.3	16.0	30,046

人口増加率は1990～98年の年平均。
65歳以上人口割合と１人あたりGDPの年次は1995年から1999年の間で，
国によって異なる。
国連およびIMFの資料による。

設問Ａ

(ア)～(エ)は，アメリカ合衆国，インド，中国，ドイツのいずれかである。(ア)～(エ)の国名を，それぞれ(ア)－○○のように答えよ。

設問Ｂ

Ｘ群の国は人口増加率がもっとも高い。このような国で，人口増加率が高い理由を，次の語句をすべて使用して，60字以内で述べよ。語句は繰り返し用いてもよいが，使用した箇所には下線を引くこと。

多産多死　　乳児

設問Ｃ

Ｙ群の国はともに人口増加率が１％程度であるが，１人あたりGDPは大きく異なっている。

（１）（イ）国の１人あたりGDPは，むしろＸ群の国に近い。このことから見ると，（イ）国の人口増加率がＸ群の国に比べて特別に低いとも考えられる。（イ）国の人口増加率がこのように低い理由を30字以内で述べよ。

（２）（ウ）国の１人あたりGDPは，むしろＺ群の国に近く，（ウ）国の人口増加率がＺ群の国に比べて特別に高いとも考えられる。（ウ）国の人口増加率がこのように高い理由を30字以内で述べよ。

設問Ｄ

Ｚ群のような国々では，近年，総人口の中で高齢者の占める割合が高くなる人口高齢化が，重要な社会問題であると考えられている。このような国で人口高齢化が進む理由を，次の語句をすべて使用して，90字以内で述べよ。語句は繰り返し用いてもよいが，使用した箇所には下線を引くこと。

出生率　　平均寿命　　人口ピラミッド

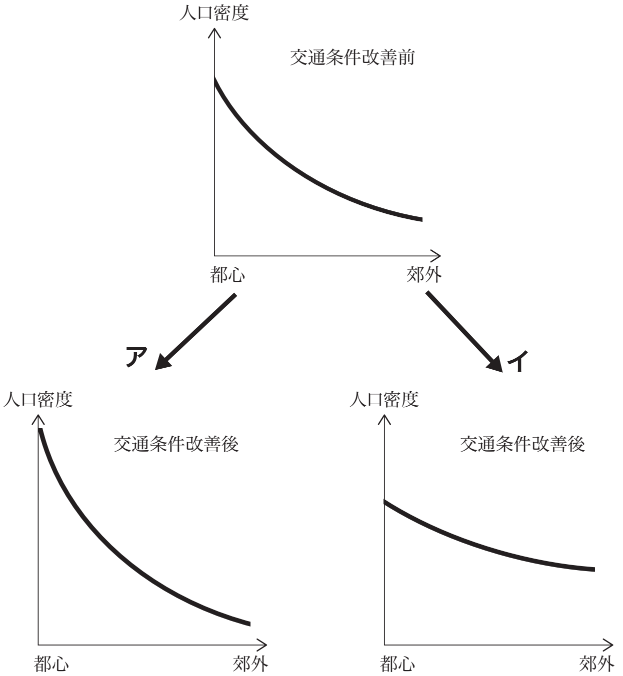
［１－２］ 東大　1997年度・第３問

大都市に関する次の文章を読んで，以下の設問Ａ～Ｃに答えよ。解答は解答用紙の(ハ)欄を用い，設問ごとに改行し，設問番号をつけて記入せよ。

江戸時代における町人の典型的な生活では，就業の場所（作業場や店）と居住の場所（住宅）とは一体であった。しかし，明治以降，近代的工場が立地するようになると，職場と住宅の共存は困難となり，通勤という就業形態が一般化した。第二次世界大戦後，都市における産業活動の中心が事務的部門に移るにつれて，都心地区に立地するオフィスが増え，ホワイトカラーと呼ばれるオフィス勤務者が都心地区に多く通勤するようになった。特に高度経済成長期に入ると大都市圏への人口流入が急増し，放射状の鉄道路線に沿う形で，住宅地が虫食い状に開発されるスプロール現象が多くみられた。このようなスプロール現象を防ぎ，大都市勤労者に必要な住宅を確保するために，大規模なニュータウンが建設された。

設問Ａ

都心地区からの放射状鉄道が整備されて郊外との交通条件が改善されると，都市の夜間人口密度の分布は次の図の**ア**と**イ**のどちらの方向へ変化すると考えられるか。適切と思われる変化を選び，**ア**または**イ**の記号を記せ。また，その理由を60字以内で述べよ。



設問Ｂ

スプロール現象は，都市の発展にとって望ましくないものとされている。その理由を，次の語句をすべて用いて90字以内で述べよ。語句は繰り返し用いてもよいが，使用した箇所には下線を引くこと。

道路　　公共投資　　利便性

設問Ｃ

ニュータウンに関する以下の問いに答えよ。

(１)イギリスやフランスにおけるニュータウンは，居住の場，就業の場，娯楽の場などのバランスを重視し自立的な都市として計画される。これに対して，日本のニュータウンはベッドタウン的な性格を持ち，主として居住の場としての位置づけがなされてきたものが多い。このような日本型のニュータウンの問題点を60字以内で述べよ。

(２)20年以上前に入居が開始された大規模ニュータウンでは，全体の人口は減少していないにもかかわらず，地区によっては，小学校の統廃合がなされているところがある。このような現象が起こる理由を60字以内で述べよ。

［１－３］ 京大　2012年度・第３問

20世紀後半以降，低緯度地域に数多くの大都市が誕生している。次の表は，南北回帰線にはさまれた地域に分布する大都市の中から，大都市圏人口の多い10都市を選び，示したものである。この表を見て，下の問（１）～（５）に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。字数制限のある問については，句読点も字数に含めよ。

都市	経度	当該都市の大都市圏人口（万人）	全国人口に当該都市の大都市圏人口が占める比率（％）	当該都市が属する国の都市人口比（％）
		2010年		2009年
A	E 121°	2,020	21.5	66
コワンチョウ	E 113°	2,510	1.8	44
ジャカルタ	E107°	1,880	7.9	53
B	E 100°	945	14.1	34
ムンバイ	E 73°	2,350	1.9	33
C	E 15°	925	13.6	62
ラゴス	E 4°	1,220	7.0	49
D	W 43°	1,260	6.5	86
リマ	W 77°	920	31.2	72
E	W 99°	2,290	20.7	78

資料：大都市圏人口に関しては，
http://www.citypopulation.de/world/Agglomerations.html
各国の都市人口比に関しては，http://data.worldbank.org/indicator

問

（１）表中の都市A～Eの中に，首都ではない都市が１つある。その都市の記号を，解答欄①に，その都市が属する国の首都名を，解答欄②に答えよ。

（２）都市Bやリマの大都市圏人口が，それぞれが属する国の都市人口に対して占める比率は40％強に達している。このように人口が集中し，他都市との人口規模の差が非常に大きくなっている都市を何というか，答えよ。

（３）都市Bの名前を，解答欄①に答えよ。この都市Bの郊外地区で進められている住宅開発以外の都市整備や開発について，解答欄②に60字以内で記せ。

(４)都市Ｅは低緯度地域にありながら，熱帯気候区には属していない。この都市の名前を，解答欄①に答えよ。この都市が，その立地条件に関係して直面している環境問題について，解答欄②に40字以内で記せ。

(５)ラゴス大都市圏の人口増加に関して，その国の南部地域にある資源の関連産業が人口吸引のおもな要因とされている。その資源の名前を，解答欄①に答えよ。また，北部地域からの人口流出の要因と考えられる自然環境の変化について，解答欄②に40字以内で記せ。

第１講　確認テスト

［１］　東大　2013年度・第３問

経済・産業の変化と人口に関する以下の設問Ａ～Ｂに答えなさい。解答は，解答用紙の(ハ)欄を用い，設問・小問ごとに改行し，設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

設問Ａ

図３－１は，2000年代前半における各国の都市および農村の年齢階層別の人口構成比率を図示したものである。

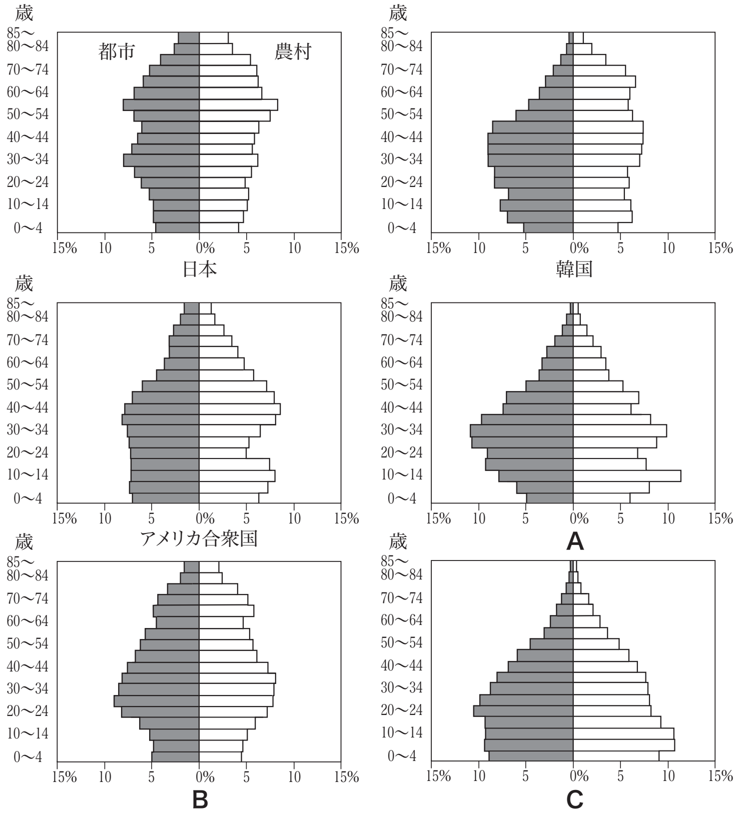


図3–1

国際連合 Demographic Yearbook による。

（１）図中のＡ～Ｃは，インドネシア，スペイン，中国のいずれかである。Ａ～Ｃの国名を，それぞれＡ－○のように答えなさい。

（２）アメリカ合衆国の都市では，30～44歳の年齢階層と，その子の世代である０～14歳の年齢階層の間にほとんど差がみられない。このような現象が現れる社会的な理由を，60字以内で述べなさい。

（３）韓国の都市では，日本の都市と比べて高齢化が進んでいない。その理由を下記の語句をすべて用い，60字以内で述べなさい。語句は繰り返し用いてもよいが，使用した箇所には下線を引くこと。

人口移動　高度経済成長

設問Ｂ（省略）

練習問題解答

第１講
練習問題・解答

［１－１］

設問Ａ

（ア）－インド　（イ）－中国　（ウ）－アメリカ合衆国　（エ）－ドイツ

設問Ｂ

多産多死だったが，高い出生率が維持された状態で衛生環境の改善や医療技術の進歩で乳児死亡率が低下し，多産少死となったから。（60字）

設問Ｃ

（１）漢民族に一人っ子政策が適用され，出生率が低下したから。（27字）

（２）ヒスパニックなど移民の流入，および彼らの出生率が高いから。（29字）

設問Ｄ

女性の社会進出による晩婚化や少子化などによって出生率が低下し，医療技術の進歩などにより平均寿命が延びたことで，少産少死となったから。人口ピラミッドも釣鐘型からつぼ型に移行している。（90字）

［１－２］

設問Ａ　記号－イ

地価の高騰や住環境の悪化により都心から人口が流出し，交通手段の整備や宅地開発が進むことで郊外への転居者が増加するから。（59字）

設問Ｂ

農地や林地の中に住宅が無秩序に混在し，宅地開発が計画的ではない場合，道路や下水道などのインフラ整備，学校や公民館の建設などの公共投資が効率的に行

われず，住民の利便性が損なわれる。(89字)

設問Ｃ

（１）日本のニュータウンは職住分離。郊外から都心部へと通勤ラッシュが生じる。昼間人口が少なく，地域コミュニティの形成が困難。(59字)

（２）開発当時は若い世代が多く，その子供世代の人数も多かったが，経年により住民構成が高齢化すると就学年代の子供の数が減少した。(60字)

［１－３］

（１）①　Ｄ　②　ブラジリア

（２）プライメートシティ（首位都市）

（３）①　バンコク　　②　都心から郊外に向けて道路や鉄道など交通インフラが整備された。大規模な工業団地も建設され，日系企業も多く進出している。(58字)

（４）①　メキシコシティ　②　盆地状の高原に位置し空気が薄く，不完全燃焼による大気汚染物質が滞留しやすい。(38字)

（５）①　原油　②　砂漠化。主に降水量の減少によるが，過放牧や薪炭材の過伐採等人為的な要因も大きい。(40字)

確認テスト解答

第１講
確認テスト・解答と解説

［１］

設問Ａ

（１）Ａ－中国　Ｂ－スペイン　Ｃ－インドネシア

（２）ヒスパニックなど都市に流入する移民の中心は若年層であり，カトリック教徒である彼らの出生率は高いため，子供の世代も多い。(59字)

（３）韓国の高度経済成長期である1980年代を中心に農村から都市への人口移動がみられたが，彼らはまだ高齢者ではない。(55字)

<解説>

（１）３カ国中最も人口増加率の低いスペインは，０～４歳人口割合の低いＢになります。中国は一人っ子政策によって出生率が急激に低下したので，そのことが年少人口に明確に現れているＡが該当します。残ったＣはインドネシアで，こちらは人口増加率が比較的高くなっています。

（２）移民の多くは若年層であり，彼らが都市へと流入してきます。アメリカ合衆国の移民にはメキシコから流入したヒスパニックが多くなっています。また，彼らは主にカトリック教徒ですが，離婚と中絶を禁じられ，出生率が高いことが特徴です。本来ならこれに加え，彼らが貧困層であり，それがゆえに出生率が高いことにも触れるべきでしたが，字数が足りませんでした。

（３）日本の高度経済成長は1960年代が中心で，韓国は1980年代が中心。20年の差があるので，日本とは異なり，都市へと移動した若年層がまだ高齢化していないのです。「韓国の高度経済成長の時期は日本より新しく」というような，日本との対比を述べるべきとも思ったのですが，（２）同様に字数が足りませんでした。みなさんは工夫してみてくださいね。

〈 ***Note*** 〉